

あすへのアプローチ

サステナビリティ元年

越川 延明

新連載①

1. 2012年、

イベントは変わる

2012年は世界中のイベント産業にとって、とても大きな意味をもつことになり

ます。それは世界最大のイベントの一つであるオリ

ンピックがロンドンで開催されること、そして、そ

こでイベント産業界初の国際標準規格ISO2012

1の適用が予定されている

からです。

オリンピックでは「レガシー」（イベント後に残るプラス・マイナスすべての影響）という概念を重視しています。この概念を持続可能性として具現化するためにISO20121を適用します。

持続可能性を簡単に定義すると「人間社会を維持するために地球全体の幸福を追求する概念」となります。そのための取組みが「持続可能な発展」です。

多くの人が持続可能性は人間社会にとって必要不可欠なことだと意識しています。ところが、現時点では多くの産業で競争上の優位点として捉えていません。

しかし、少しずつ、着実にこの意識は高まってきた

います。20年前は環境よりも品質や価格が重視され、10年前は環境への取組みが評価されていました。いまや環境への取組みは当たり前となつています。持続可能性もそのようになるはず

です。持続可能性への取り組みべき内容は誰も教えてくれません。私たち一人ひとりが考え、行動に移すことで初めて形になります。自分なりの持続可能性を形作り、磨きあげていった産業、企業、個人がこれからの社会の牽引役となります。

イベントはさまざまな立場の人が行き交うことで成り立つ社会の縮図です。そして数ある産業のなかでも直接体験し、共有することにおいて非常に高い影響力

をもちます。このような産業に携わっている私たちがイベントを通じて持続可能な社会を提案していくことがこれからの社会との関わりだと考えています。

社団法人日本イベント産業振興協会はISO20121の国内審議団体としてこれからもイベントと社会を結びつけ、発展させていくキードライバーとして持続可能性に取り組んでいきます。

これから連載では、ISOについても触れながら、いまの時代必要とされるイベントの社会的役割などについてお伝えしていきたい

と思います。
(社)日本イベント産業振興協会 業務本部国際規格室(室長)